今年を飛躍の年に

時代は「多様性」

存続・成長し続けるために

黒田　章裕

あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、どうか穏やかな1年にと願いながら、新しい年をお迎えになられたことと思います。次々起こる世の中の変化や、予測できない未来に企業活動を続けていくにあたり、大いにチャレンジの日々を過ごされているのではないでしょうか。

時代は「多様性」です。昨年開催された大阪・関西万博を訪れ、世界は多様で面白いと体感された方も多いでしょう。世界中から人が集まり、国境もバックグラウンドも関係なく、共に未来を考え、リアルに言葉を交わし交流できた貴重な期間でした。

そのようななか、とても印象深かった出来事がありました。地下鉄のトラブルにより想定以上の時間、電車が止まってしまい「帰れなくなった人たちが、少しでも過ごしやすいように」と、シフトを終えて疲れているに違いない現場のスタッフの皆さんが、それぞれ自発的にベストを尽くし、再びパビリオンを開放、飲食物や眠れる場所、バッテリーチャージ等、安全に過ごしてほしいとの想いで呼びかける、その「しなやかさ」「レジリエンス」な対応はとても印象的でした。これから世界の中で求められる日本らしさを改めて垣間見えたように思いました。

国も立場も仕事も様々な人たちが、共に工夫して新しい価値を創り出す瞬間は、他にも大小問わず本当に色々あったと思いますが、どの瞬間も非常に感動的なものだったのではないでしょうか。トップが号令を出してその通りに動くのではなく、一人ひとりが、今必要なことが何か考え、能動的に主体的に動く。これこそ今の日本のビジネスに必要なことだと思います。これまで培ってきた経験や日常の中で、皆さんそれぞれ、世の中に求められることが何か、感じることがあるはずです。

経営者の皆さまにおかれましても、社員の方と会話され、一人ひとりがどんなアイデアを持っているのか、それが企業、業界、経営者、従業員として、どう実現し、世の中に貢献できるのか、社員の方が何がしたいのか、また、私たち自身が存続・成長し続けるためにどう変われるのかを考えて行きましょう。一人でも多く、また小さな一歩からでも、行動に起こすことが大切です。「いのち輝く未来社会のデザイン」を見に来られた方々が希望を感じられるよう、共に頑張って参りましょう！【全日本紙製品工業組合理事長、大阪紙製品工業会会長、コクヨ株式会社会長】

体験型店舗へ進化を

地域に愛される店舗づくり

宮城　邦弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

業界を支えてくださるメーカー・卸各社の皆様、そして全国の会員の皆様には、昨年一年間のご尽力に心より感謝申し上げます。

文具小売業界は厳しい環境の中にありますが、多くの皆様に支えられ昨年も前進を続けることができました。

近年、文具業界は大きな転換期を迎えております。少子化や消費行動の変化、デジタル化の進展により、店舗数の減少という現実に直面しています。しかし、こうした変化は決して悲観すべきものではありません。むしろ、新しい価値を創造し、未来に希望を持って挑戦する絶好の機会であると考えています。

令和8年度、当組合は、昨年同様文具事務用品業界に特化した業務管理システム『新全文くん』のPRを進めて参ります。このシステムは、単なるレジ機能にとどまらず「多品種・少量・多頻度」の受発注にきめ細かく対応した運用を可能にすると共に、販売データの分析や在庫管理、顧客動向の把握など、店舗経営に不可欠な情報を一元管理できる強力なツールです。

導入いただいた店舗からは、次のような声が寄せられています。

「在庫管理が簡単になり、欠品や過剰在庫が減った」（東北・A店）

「販売データを分析し、売れ筋商品を把握できるようになったことで、仕入れの精度が向上した」（東京・B店）

「レジ業務の効率化で、スタッフの負担が軽減し、接客に時間を割けるようになった」（九州・C店）

さらに、ある店舗では『新全文くん』を活用して、顧客の購買履歴を分析し、季節ごとのおすすめ商品を提案することで、前年同月比で売上が15％増加しました。こうした事例は、デジタル化が単なる効率化にとどまらず、売上拡大や顧客満足度向上に直結することを示しています。

しかし、私たちの目指す未来は、単なる「効率化」や「売上増」だけではありません。文具は、人々の暮らしや学び、仕事を支える「文化的生活用具」として大切な存在です。デジタル化を進めながらも、文具が持つ「ぬくもり」や「創造性」を次世代にしっかりとつなぐことが、私たちの使命です。

そのために、未来の文具店は「体験型店舗」へと進化していく必要があります。単なる販売の場ではなく、地域に根ざしたコミュニティの拠点として、文具を使ったワークショップや学びの場を提供する。例えば、親子で楽しむ手書き体験、学生向けのノート術講座、ビジネスパーソン向けの手帳活用セミナーなど、文具の魅力を体験できる場をつくることで、店舗は「買う場所」から「楽しむ場所」へと変わります。こうした取り組みは、オンラインでは得られない価値を提供し、地域に愛される店舗づくりにつながります。

この未来像を実現するためには、メーカー・卸各社の皆様との連携が不可欠です。新しい商品開発や体験型イベントの企画を共に考え、時代に合った価値を提供していくことが、業界全体の成長につながります。私たちは、単なる「守り」ではなく、「攻め」の姿勢で未来を切り拓きます。

本年は、会員の皆様が「やってみよう」「変わってみよう」と思えるような情報提供やサポートをさらに充実させます。全国の仲間と共に、希望を持って挑戦する一年にしてまいりましょう。【株式会社ミヤギ社長、全日本文具事務用品団体総連合会長】

有用な展示会の開催

文具産業を衰退させない為に

石川　真一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

文具業界の皆さまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素より全日本文具協会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、わが国の景気動向は、対中国などの外需の不振、日中の関係悪化や米国の追加関税政策などにより成長が鈍化しつつも、GDPは9％前後のプラスと予測されており、内需や政策対応に支えられて緩やかな回復基調を維持しています。

一方で、国内の消費動向は、雇用者所得は上昇しているにもかかわらず、食料品を中心とした相次ぐ物価の上昇に下押しされており、依然として抑制傾向にあります。

文具の国内需要をみますと、パーソナル需要は安定的に推移しているものの、オフィス需要については、企業や官公庁の積極的なAIや業務用ソフトの活用による事務作業の軽減、あるいはDX推進によるペーパレス化の一層の進展により、オフィスでの文具を使用する機会の減少という厳しい状況が顕在化しています。

多くの文具メーカーは、すでにオフィス需要からパーソナル需要に軸足を移しており、様々な層のパーソナルユースに合わせて、品質・性能・機能・デザインの高度化などの付加価値を高めた文具の開発に加え、製品に環境配慮を付加するなど、魅力的なモノづくりのための努力を重ねるとともに、各社の技術や特性を生かし、従来の書く・貼る・綴じるという文具の基本の用途に替えて、文具の枠を超えた新たな用途を持たせた製品の開発を進めるなど、文具市場の外に向けて積極的に進出していく企業も増えています。

文具ブームは長く続いておりますが、その中で多くの文具研究家や文具のインフルエンサーが誕生し、それらの皆さまが独自の目線で、文具に関する様々な情報をSNSにより発信されており、メーカー側の努力とSNSの発信効果が重なりあって、国内のパーソナル需要を喚起し維持していると考えられます。

日本の文具は、海外においても、多くのユーザーから品質・性能・機能・デザインにおいて支持をいただいており、コロナ禍で減少した文具の輸出も筆記具を中心に回復し、更なる伸長を見せているところです。海外のニーズに応えるために、文具メーカー各社は、生産拠点やサプライチェーンを海外に求めるなど、海外ユーザーに安定的かつ手ごろな価格で文具を提供するための努力を重ねております。

しかしながら、わが国は、大幅な人口の減少という将来の重要な課題を抱えています。

経済研究所によれば、2070年頃に、わが国の総人口は9千万人を割り込み、そのうち65歳以上の人口が全体の39％程度になると試算されており、このことは外国からの移民の受け入れが進んだとしても、将来的な文具需要の後退を示唆しています。さらにAIなどの技術発展に伴い、国内の文具のオフィス需要は更に低下し、また少子化の進展は、学習用文具の市場縮小に直結します。

わが国の文具産業を衰退させないためには、新たな需要をグローバル市場と文具以外の国内市場に求めていくことをこれまで以上に前向きに考える必要があり、そのためには、文具業界に求められる有用な展示会の開催も検討しなければなりません。

全日本文具協会は、これらの課題に向き合いながら、関係省庁並びに業界関係各位のご指導とご支援を仰ぎながら、優れた文具製品を安心してユーザーにお求めいただけるように、化学物質管理などの製品安全に向けた対応、グリーン購入や認定プラスチック製品などの環境配慮及び環境表示の普及、あるいは知的財産権の擁護などの各事業を積極的に推進するとともに、文具業界発展のために尽力してまいる所存でございますので、より一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、文具業界の皆様におかれましては、新たな年に一層のご発展を遂げられますよう祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。【一般社団法人全日本文具協会会長、ゼブラホールディングス株式会社会長】

「卸」の役割が益々重要

次世代にふさわしい価値創造

杉山　一徳

2026年の幕開けにあたり、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より日本文紙事務器卸業連盟の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年2025年は、昨年の干支が表していた通り、世界経済・社会において「劇的な変化」の年でありました。米国トランプ政権の誕生とその後の世界経済の混乱に始まり、地政学的リスクによるエネルギー価格や物流コストの変動が企業活動に影響を与えました。日本は初の女性首相の誕生に沸き、連れて景気回復の兆しが見える一方、就労環境の変化による人手不足や物価上昇への対応が引き続き課題となり、企業は効率化と付加価値創出の両立を求められてきました。更に、生成AIやデジタル技術の急速な進化は、働き方や教育現場に新たな潮流をもたらし、ビジネスモデルの再構築を迫っています。

こうした環境下で、文房具・事務機器業界も大きな転換期を迎えています。オフィスの在り方と労働環境の変化と共に従来型の事務用品の需要は縮小傾向にあります。一方で、高機能文具や、サステナブル素材を用いた製品、さらにはデジタル連携を強化した事務機器へのニーズの高まり、加えて、教育分野でのICT化の進行に伴い、紙とデジタルの共存を前提とした新しい学習ツールが求められています。

こういったニーズの変化に伴い、業界全体が、単なるモノの供給から、働き方や学び方を支えるソリューションを提供する「価値提案型」への転換が不可欠となっています。環境対応やDX推進はもちろん、ユーザー体験を高める提案力が競争力の源泉となります。商品情報の自動生成、在庫管理の最適化、需要予測など、業務効率化に大きな可能性を秘めている生成AIの活用。また、DXに関しては、取引の透明性とスピードを高め、サプライチェーン全体の効率化を実現する為の受発注電子化、クラウドによる情報共有、データ連携の強化などの業界全体での標準化が急務です。今や企業価値を左右する重要な要素であるサステナブルな取組では、プラスチック削減、カーボンニュートラルへの対応など、製品だけでなく物流や包装に至るまで、メーカー・卸・販売店が一体となり、持続可能性を意識した環境負荷低減に向けた取組が不可欠となっています。そして、人手不足や燃料費高騰といった構造的課題に応える、共同配送や在庫拠点の最適化など、テクノロジーを活用した物流改革による効率化が不可欠です。更には、企業経営をも脅かす様々なリスクに対抗して、常なる「安心・安全」の提供に加え、「安定」して商品供給を継続する為の強固なセキュリティ対策も求められています。

このように当業界全体に変容が求められる中で、我々「卸」の役割はますます重要になります。「卸」は、メーカー様と販売店様を効率的・合理的につなぐだけでなく、従来の枠を超えた発想と行動により、常に新たな情報と新たな付加価値を橋渡しする存在へと進化しなければなりません。具体的には、①市場動向や製品情報の迅速な共有、②環境・DX対応商品の積極的な提案、③ECやデジタルプラットフォームとの連携強化、④地域密着型サービスの深化が鍵となります。日本の業界問屋の団体である日本文紙事務器卸業連盟と致しましても、問屋がこういった「次世代にふさわしい価値を創造」して、メーカー様・販売店様から絶大に信頼されるパートナーであり続けられるように、引いては、大きな転換期にある当業界の更なる発展に、最大限尽力して参りたいと思いますので、業界関係者の皆様におかれましては、本年も倍旧のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。【日本文紙事務器卸業連盟会長、株式会社東京エコール社長】